

0-1 急性期心疾患患者における squeezing による循環動態・呼吸循環の変化

東京女子医科大学日本心臓血圧研究所CCU¹⁾，東京女子医科大学看護学部²⁾

関根 由紀¹⁾、曾田信子²⁾

【目的】急性期心疾患患者に対し、呼気時胸郭圧迫法（以下 squeezing）を施行した際の循環動態への影響および呼吸循環の改善について検討した。

【方法】呼吸理学療法が必要とされた急性期心疾患患者 10 名に対し、挿管・非挿管に関わらず呼吸状態に合わせ目的とされる部位に、適宜 squeezing を施行した。なお心原性ショック、大動脈バルーンポンピング挿入中およびコントロールされていない重症不整脈患者は除外した。循環動態のパラメータは、心筋酸素需要指標 (PRP) および肺動脈圧 (PA)、心係数 (CI)、不整脈の有無を squeezing 前後に測定した。呼吸循環は、squeezing 前後の酸素飽和度と squeezing 施行期間前後の酸素含量および動脈血ガス分析から R. I. と O. I. を経時的に調べた。データ分析は、挿管・非挿管、FS0.16 以上・未満、および全体に分類した。

【結果】1. 循環動態：PA は t 検定にて、非挿管時以外は施行前より施行後は有意に低下していた。CI は、挿管時と FS0.16 未満において有意に上昇が認められた。PRP については、全てにおいて低下していたが、有意ではなかった。不整脈の発現状況は、PAC 2 名、PVC 2 名、PAT 1 名であった。また、不整脈発現率は挿管・非挿管、FS0.16 未満・以上の χ^2 検定では両者とも不整脈の発現には有意差はみられなかった。2. 呼吸循環 SpO₂ は非挿管と FS0.16 未満以外において有意な改善が認められた。CaO₂ は、squeezing 施行期間前は 13.8 ± 0.8 、施行期間後は 14.1 ± 0.8 ($p=0.041$) と有意に改善していた。酸素化指数の O. I. と R. I. の変化では、経時的に改善の傾向がみられた。

【結語】急性期心疾患患者に対する squeezing は安全であり有効である事が示唆された。